平成24年度

田原本町教育委員会活動点検評価報告書

平成25年2月

田原本町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条第1項の規定に基づき、平成23年度に田原本町教育委員会が実施した教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の結果について報告します。

平成25年 2月19日

田原本町教育委員会

目 次

	はじめ	に・	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
	教育委	員会	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
	点検・	評価	項目	∄																										
•	幼児教	育の	推道	進・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
•	小・中	学校	教育	うの	推	進	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
•	障害児	教育	のŧ	隹進	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	8
•	学習体	制の	充詞	実・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	0
•	生涯学	習環	境(の充	実	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	2
•	図書館	事業	· の 3	乞実	·	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	4
•	文化活	動の	促達	進・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	6
•	スポー	ツに	親し	しむ	環:	境	の	整	備	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	8
•	スポー	ッ・	レ	リ	エ	_	シ	3	ン	活	動	の	普	及	•	啓	発	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	0
•	生涯ス	ポー	ツロ	の推	進	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	2
•	文化財	の保	存	整備	体	制	の [']	充	実	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	4
•	歴史遺	産の	活月	用・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	6
•	郷十愛	• 🕏	化围	オ愛	謹	浩	油	ത	苔	ьţ																			2	8

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、田原本町教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものです。

Ⅱ 点検・評価の基本方針

1 点検・評価の目的

法改正を受け、町教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を 自ら点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに、住民に公表することといたし ました。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「田原本町第3次総合計画」第2章「人が活きいきと輝くまなびのまちづくり」の教育関連施策を点検・評価の対象としました。

点検・評価の対象年度は、平成23年度です。

- (1)田原本町教育委員会の運営・活動状況
- (2)「田原本町第3次総合計画」に基づく施策体系ごとの点検・評価(13施策)

3 点検・評価の方法

「田原本町第3次総合計画」に基づく施策体系ごとに、進捗状況の参考となる指標及び実施事務事業の実績を掲載しています。

上記の指標及び実施事務事業の実績を基に、教育委員会で点検・評価を行っています。評価にあたっては、客観性を確保するために、外部の学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

【点検評価委員】

(敬称略 五十音順)

役 職	氏 名	備考
委員	里 見 大 聞	学識経験者(教育経験者)
委員	東口豪	学識経験者(行政経験者)

田原本町教育委員会の運営・活動状況

1 教育委員

(平成24年 3月31日現在)

職名	氏名	職業	就任年月日	任期満了年月日
委員長	森 章浩	団体役員	H21.12.24	H25.12.23
委 員	後藤田 和子	無職	H21. 3. 2	H27. 9.21
委 員	川本 益弘	無職	H16.12.23	H24.12.22
委 員	田部井紀美子	無職	H23.12.22	H27.12.21
委員(教育長)	片倉 照彦	公務員	H22. 9. 8	H25. 3.31

2 教育委員会議の開催状況

·定例会····10回

·臨時会···· 1回

3 教育委員会議の審議状況

·報告事項……20件

·審議事項·····24件

4 教育委員の活動状況

- ·定期学校訪問実施(年1回)····幼稚園5園·小学校5校·中学校2校
- ·幼稚園·小学校·中学校行事への参加····入園式·入学式·運動会·卒園式· 卒業式及び各種研究会等
- ·各種研修会への参加·····近畿市町村教育委員研修大会(岸和田市)·奈良県市 町村教育委員研修大会·人権教育各種研究大会·青少 年健全育成各種研究大会等
- ・各種行事への参加・・・・成人式等

施策名	幼儿	総合計画	画位置づけ	2-1-1		
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名		

1.施策概要

2. 実施結果

4、天爬柏木											
指標名		前期基本計画目標 H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度					
説明	単 位	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)					
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)					
公立·私立幼稚園就園率		60	60	60	60	60					
対象年齢者に対する公立·私 立幼稚園の園児在籍率	%	57									
(説明)											
(説明)											
施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H23年度)											
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検					
幼稚園運営事業		教育総務課	215,786	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要					
幼稚園施設管理整備事業		教育総務課	6,022	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要					
幼稚園教育振興事業		教育総務課	2,459	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要					
±⊥			204 207								

224,267

達成度 (目標の 達成状況は どうか)	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている ● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている ○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい 幼稚園の就園率は、57パーセントで公立幼稚園では50パーセント前半に低迷しており就園率向上に向けた改善策を検討していきたい。なお、3歳児保育については定着してきており、一定の成果があがっていると考えられる。
必要性 (ニーズは 今後どう変化 するか)	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 今後も、子育てに悩む家庭が増加し、幼稚園の果たすべき役割が大きくなると予想される。いっそう開かれた幼稚園づくりを推進し、家庭の要望や地域の実態に応じた積極的な子育て支援が必要である。
	子どもの数の減少や、社会ニーズの大きな変化を背景に、就学前の幼児教育のあり方の見直しが求められている。今後は、官民の役割分担、地域特性、投入コストの観点からそのあり方を見直し、さらに、充実した事業展開が必要である。

4.次年度の展開方針〔部としての判断〕

	1000000						
	〔複数選		を見直して推済	_		,	の水準を維持する)
		数の減少傾向が続くなか、幼稚園教育要					
		見教育の確保に努めていきたい。施設面に 特に遊具については、安全点検の徹底及					ため、他設の老朽化
施策の方向性	OK A	付に歴典にプロでは、女主無機の個成及	. ひかはすず田 19	で天旭して	10/201	0	
			山の左座	1104年帝			H25に向けた
	事務事業	業名	H23年度 決算	H24年度 予算	優先	も性	経営資源(事業費)の
	3-3/3-2		(単位:千円)	(単位:千円)		<u> </u>	方向性
		軍営事業	215,786	244,811	3 普	通	現状のまま
		施設管理整備事業	6,022	7,316	3 普	通	拡大
	幼稚園	教育振興事業	2,459	2,914	3 普	通	現状のまま

施策を							
構成する							
主要な事務事							
業の方向性							
	entermonet en entermonet en					***************************************	
	/ ÷r +01						
	【新規】						
		計	224,267	,			
		が安心して子育てが行えるような施策の推進					
内部評価の		こ対応する相談機能の充実など地域の実情 ら必要がある。	ずや保護者の	ンニースを踏	まえた多	を様な別	抗字前教育環境の整
コメント	備で図る	の必要力のも。					
	急激な明	- 寺代の変化にともない、就学前教育としての	幼稚園の担	う役割がます	すます大	きくなっ	ってきている。地域の
九如亚杰子里	実情やほ	呆護者のニーズを踏まえ子どもの教育だけ	でなく子育て				
外部評価委員 のコメント	もに幼稚	i 園の教育環境の整備も一層進める必要が	である。				
32 J7:2 1							

施策名	小中	総合計画	画位置づけ	2-1-2		
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名		-

1.施策概要

- 100-11-11-100-4	
	児童・生徒及び保護者にとっても、安全で安心できる学校に通学することにより、確かな学力の定着を図ると 共に、体力を向上させ、心豊かな人間性を育む。
施策概要	教育環境の整備。 職業観や人生観の醸成。 教育体制の確立。 安心·安全な教育環境の整備。 関係機関と の連携。

指標名	単	前期基本計画目標 H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
説明	位	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
H\0-43	144	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
				·		
学校施設の耐震化率	0,	74	81	93	95	100
強度を確保している学校が の割合	施設 %	74				
中学生の職場就労体験 数		3	3	3	3	3
中学生の職場体験学習の 労日数	就	3				
小·中学校へのALT(外語指導助手)の派遣日	数	295	299	299	299	299
小·中学校へのALT派遣E	日ヨ数日	295				
	施策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23年	· 丰度)	
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
小学校運営事業		教育総務課	91,483	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
小学校施設管理整備事業		教育総務課	90,932	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
学校給食事業		教育総務課	53,997	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
小学校教育振興事業		教育総務課	18,909	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
小学校サポート体制支援事	業	教育総務課	10,581	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
中学校運営事業		教育総務課	43,479	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
中学校施設管理整備事業		教育総務課	11,805	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
中学校教育振興事業		教育総務課	4,544	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
中学校サポート体制支援事	業	教育総務課	6,280	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
事務局運営事業(一部)【A L T	教育総務課	7,570	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要	
Ė		339,580				
			•			

20214 -22	l y1
達成度	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい
(目標の 達成状況は どうか)	児童・生徒の学力向上を目指し基礎・基本の学習に取り組んでいる。 引き続き一人ひとりを大切にした学習を進める。 また、 耐震化工事に関しては、 学校施設耐震化計画によりほぼ順調に工事を施工している。
	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ◎ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない
必要性	〇 C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは 今後どう変化 するか)	全国平均を大きく下回っている体力の向上を図るため、運動する機会を確保するとともに、食育を推進する必要がある。また、児童・生徒が一日の大半を過ごす学校校舎の耐震化工事に関しては、東南海・南海地震防災対策推進計画に基づき大規模な地震の発生を予測して、学校施設耐震化計画を予定どおり施工している。
	 社会状況の変化に伴い、児童生徒の規範意識が低く基本的な生活習慣が乱れる傾向にある。 耐震化工事に関
施策を 進める上での 問題点・課題	しては、施工に多額の工事費が必要となるため、財源の確保が課題となる。

4.次年度の展開方針(部としての判断)

4.次年度の	展開方針(部としての判断)				
	〔複数選択可〕 □ 重点化して推進 □ 内容	Fを見直して推進		その他 (現状の	D水準を維持する)
施策の方向性	田原本町教育委員会が策定した「学校教育の指導でたくましい心身」の育成を重点目標とします。さらにたくましく生きる子ども」の育成をめざし、組織的	に、各園・校	において「恩	感謝の心でいきい	
	事務事業名	H23年度 決算 (単位:千円)	H24年度 予算 (単位:千円)	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	小学校運営事業	91,483	99,740	3 普 通	現状のまま
	小学校施設管理整備事業	90,932	69,688	5 最優先·緊急的	拡大
	学校給食事業	53,997	60,518	3 普 通	現状のまま
	小学校教育振興事業	18,909	11,920	3 普 通	現状のまま
施策を	小学校サポート体制支援事業	10,581	11,618	3 普 通	現状のまま
ル東を 構成する	中学校運営事業	43,479	48,905	3 普 通	現状のまま
主要な事務事	中学校施設管理整備事業	11,805	27,297	5 最優先·緊急的	拡大
業の方向性	中学校教育振興事業	4,544	12,523	3 普 通	縮小
	中学校サポート体制支援事業	6,280	8,705	3 普 通	現状のまま
	事務局運営事業(一部)【ALT派遣事業】	7,570	7,570	3 普 通	現状のまま
	【新規】				
	計	339,580	358,484	/- Us > 34 1	
内部評価のコメント	「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」「健康達段階をふまえたうえでの個々の発達に応じた適耐震補強工事の実施により、子どもたちが安全・多場所としての機能も十分に発揮することができる。	切な指導を展	開し、学校	教育全体の充実	€を図っている。また、
外部評価委員のコメント	次代を担う社会人として必要なた〈ましい身体と心 に努め地域・家庭との連携・協働をより一層進め、 て頂きたい。				

施策名	障害	障害児教育の推進				
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名		-

1.施策概要

-	· • #6>/\	
		学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害(PDD)等も含めて、障害のある幼児・児童・生徒がいきいきとした学校生活を送り、一層の自立と社会参加を促す。
	施策概要	幼児・児童・生徒に対して個々の発達に応じた適切な教育の推進。就学の支援。

4. 美脆結果						
指標名 説明	単位	前期基本計画目標 H23年度 (目標/計画)	H24年度 (目標/計画)	H25年度 (目標/計画)	H26年度 (目標/計画)	H27年度 (目標/計画)
гичл		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
特別支援教育コーディネー ターの学校配置率	0/	100	100	100	100	100
特別支援教育コーディネーターの小・中学校配置率	%	100				
特別支援教育支援員の学校 配置率		100	100	100	100	100
特別支援教育支援員の小学校(5校)への配置率	%	100				
障害のある児童·生徒の就学 率	0/	100	100	100	100	100
障害のある児童·生徒の就学 率	%	100				
施:	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23年	丰度)	
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
小学校教育振興事業(一部)		教育総務課	875	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
中学校教育振興事業(一部)		教育総務課	223	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
計			1,098			

達成度 (目標の 達成状況は どうか)	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている ● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている ○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい 磯城郡就学指導委員会では、教育・医学・行政の専門家が検討し、総合的な判断を行っている。保護者にとって幼児・児童・生徒の障害の程度を基に適切な教育環境を考える判断材料となり、適正な就学につながっている。就学奨励費については、特別支援学級に在籍する児童・生徒に必要な経費の負担軽減に一定の成果を上げている。
必要性 (ニーズは 今後どう変化 するか)	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 障害のある幼児・児童・生徒の適正な就学を推進するために、各分野の専門官から構成される就学指導委員会 は重要な役割を果たすものである。また、就学奨励費については、保護者の経済的負担の軽減のため必要不可 欠である。
施策を 進める上での 問題点・課題	一人ひとりの教育的ニーズを把握するなど、適切な指導及び必要な支援を行うための体制整備等が課題となっている。

4. 次年度の	茂 開力:	計(部としての判断)							
	〔複数逞		見直して推進				の水準を維持する)		
		援教育において、就学前から義務教育終了。 には、またなである。		した教育体制	制の構築	を目指	す。なお、就学援助		
****・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	に関しく	は、さらなる事務の効率化と適正な援助に多	今のていく。						
施策の方向性									
			H23年度	H24年度	1五月	∟ 1 <i>0</i> 1	H25に向けた		
	事務事業	業名	決算 (単位:千円)	予算 (単位:千円)	優先	记住	経営資源(事業費)の 方向性		
	小学校教	教育振興事業(一部)	875	1,212	3 普	通	現状のまま		
	中学校教	教育振興事業(一部)	223	352	3 普	通	現状のまま		
施策を					•				
構成する 主要な事務事									
業の方向性				•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••					

	【新規】								
		計	1,098	1,564					
		ある幼児・児童・生徒の就学先を判断するにる。 シャツマなし、関係機関とも連携をしたがら適と							
内部評価の	導・調査・判定をし、関係機関とも連携をしながら適切な方向性を示している。今後も適正な就学に努めたい。								
コメント									
			111	- 10 34 3					
		おいては、障害のある幼児、児童及び生徒に とも、個々の発達に応じた適切な指導及び』							
外部評価委員	30 712	この、同、いんたに心のに起める日寺及び、	J X .G X JQ	CO / 1815	-/= 0 ()	AC100	• 0		
のコメント									

施策名	学習	総合計画	画位置づけ	2-2-1		
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名		-

1. 施策概要

	学びたい人が学びたい時に学べるよう、様々な学習の機会や情報を提供し、人と人との繋がりを広げるとともに、自己を向上させることで地域・町づくりに繋げる。
	各種教室·講演会·地区別懇談会等を開催して、様々な学習機会を提供する。また、子どもを対象とする教室を開催する。

4、天/吃桶不						
指標名	単	前期基本計画目標 H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
説明	位	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
H/0-73	'	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
教室の開催数(公民館学習・放課後子ども教室・理科大好き教室等)		300	300	300	300	300
年間に開催した教室の数		385				
教室への参加人数	人	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
年間の教室への参加人数		5,336				
	-					
施	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23年	 	
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
社会教育総務事業		生涯教育課	48,286	B:普通	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
生涯学習事業		生涯教育課	14,196	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
青少年健全育成推進事業		生涯教育課	9,374	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
人権教育指導事業		生涯教育課	3,962	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
計			75,818			
·		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				

	••
達成度	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている○ B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている◎ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい
建成仏流は	(説明) 指標の目標達成度は、教室の開催数は増加しているが、参加者は減少している。子どもの教室については、定員があり増員は難しい。(放課後子ども教室546人・子ども科学教室56人・星を見る会44人・クリスマスアレンジ17人)公民館学習において、参加者の減少がある。(H22年度4,917人・H23年度4,673人)
	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ◎ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない
必要性	〇 C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは 今後どう変化 するか)	(説明) 公民館学習においては、勤労者の参加は少ない。高齢者や、家庭にいる主婦層によって教室が成立しているので、参加者の高齢化により、ニーズは強いが、参加者は減少傾向になる。
施策を 進める上での 問題点・課題	(説明) 参加者の固定化、高齢化が見られ、教室の参加者数が減少傾向にある。子どもの教室は、定員が少なく、補助 対象のものが多いので見直しを迫られる場合がある。
	The state of the s

4.次年度の展開方針(部としての判断)

4・ 次 干 及 い	展用刀:	単一に						
	〔複数選	選択可)	□ 重点化して推進	☑ 内容を	見直して推進	<u> </u>	その他 ()
施策の方向性			教室を3年間続けた 学校·地域を含む全				を奨励し、活性	:化を図る。また、青少
	事務事	業名			H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	社会教育	育総務事	業		48,286	51,893	3	現状のまま
	生涯学習	ョ 事業			14,196	17,441	3	現状のまま
	青少年健全育成推進事業				9,374	9,857	3	現状のまま
	人権教育指導事業				3,962	4,112	3	現状のまま
施策を								
構成する								
主要な事務事								
業の方向性							***************************************	

		1						
	【新規】							
			±1		75.040	00.000		
	** ** TIM !	* ~ * //	計		75,818	83,303	** ** * * * * * * * * * * * * * * * *	
内部評価のコメント	教育環境の変化の中で、社会教育の中核的な場として、また、地域住民の教育や交流の場として公民館の果たす役割がますます注目されている中で、生涯学習のあり方を考えていく必要がある。							
外部評価委員のコメント			削造を目指し町民の二 服を提供していく必要		:各種教室·	講演会等を	企画し学びたい	1人が学びたい時に

施策名	生涯等	生涯学習環境の充実				
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名		-

1.施策概要

· • #6>/\	
めざす 成果目的	安全で快適に利用できる施設環境の充実を図ることにより、住民の学習活動が活性化する。
	田原本青垣生涯学習センターは、生涯学習施設として町民の方々に活用されており、安全・快適に利用できるように、環境整備を行う。

۷.	夫爬痴未						
	指標名 説明	単位	前期基本計画目標 H23年度 (目標/計画)	H24年度 (目標/計画)	H25年度 (目標/計画)	H26年度 (目標/計画)	H27年度 (目標/計画)
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
	管理点検回数		310	310	310	310	310
	年間の管理点検を実施した回数 数	Ы	310				
	公民館貸館件数	人	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	年間の公民館貸館件数	^	4,086				
	公民館の利用人数	人	55,000	55,000	56,000	57,000	57,000
	年間の公民館の利用人数	^	49,239				
	· 施:	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23	王度)	
	事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
青均	青垣生涯学習センター管理事業生涯教育課		生涯教育課	82,489	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
生》	王学習事業		生涯教育課	14,196	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
	計	_		96,685			
_	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						

	···
達成度	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい
	(説明) 年間の公民館貸館件数、利用人数については、無料の貸館(町主催の事業に使用する場合)を含む数字であり、無料の場合は人数の把握ができていない場合があり、目標に到達していない。
必要性	● A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある○ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは 今後どう変化 するか)	(説明) 開館以来、町民の生涯学習の場として、多くの方々に利用されており、今後、更なる利用者の増が見込まれるので、施設環境等を損なわないように適切な維持管理を行う必要がある。
施策を 進める上での 問題点・課題	(説明) 今後、施設等が老朽化していく中で、取り替え時期・故障する機器等が多く出てくるので、出来るだけコストを抑える工夫を行い、施設の維持管理を行うこと。
4 次年度の	展閲方針(部としての判断)

4.次年度の	展開方	対(部と	:しての判断〕					
	〔複数遺	選択可)	☑ 重点化して推進	□ 内容を	見直して推過		その他 ()
施策の方向性			老朽化していく中、でき 維持管理等を行う。	きる限りコストを	:抑えて施言	段を良好な세	犬態に保ちなが	ら、便利で快適に利
	事務事	業名			H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
			zンター管理事業		82,489	103,306	4	現状のまま
	生涯学習	と と と と と と と と と と と と と と と と と と と			14,196	17,441	3	現状のまま
	***************************************	***************************************						
施策を								
構成する	MARIARIA ARIAN BIANDA BIANDA ARIAN ARIA							
主要な事務事 業の方向性								

		ı						
	【新規】							
			 計		96,685	120,747		
	来館者·	利用者	が安全かつ快適に利用	目できるよう管理		,	減に努めること	が必要である。
内部評価のコメント								
N 初本/正子 B			zンターは生涯学習の抗 が納得して活用できるよ					
外部評価委員のコメント								

施策名	図書	総合計画	面位置づけ	2-2-3		
部名	教育委員会	主担当課名	図書館	担当課名		-

1.施策概要

めざす 成果目的 住民が読書の楽しみを知り、趣味や生きがいを持って豊かな生活が送れるように資料を提供し、自発的な 学習の支援を行うと共に、地域の情報拠点としての図書館サービスの充実をはかる。

施策概要

郷土資料を含む多種多様な分野の資料を収集し、蔵書の充実を図る。学校等との連携を図り、子どもの読 書活動を推進する。各種講習会や広報活動を行い、利用の促進を図る。録音図書の作成、点字資料・大活 字本の収集を行ない、障害者サービスの充実を図る。多様なレファレンスに対応するため、資料に精通した 職員の育成に努める。

	指標名	単	前期基本計画目標 H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
	説明	位	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)
	蔵書冊数		179,000	178,972	183,972	188,972	193,972
	(説明) 年度末の蔵書冊数	₩	173,972				
	貸出冊数	₩	500,000	582,800	582,800	582,800	582,800
	(説明) 年間の個人・団体・相互総貸 出冊数	יטון	566,575				
	登録率	%	50	50	50	50	50
	(説明) 町民の図書館利用カード登 録率	70	49				
	施统	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23年	年度)	
	事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
図書	書館収集提供事業		図書館	19,856	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
子と	さ読書活動推進事業		図書館	83	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
図書	書館利用促進事業		図書館	0	B:普通	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
図書	書館運営管理事業		図書館	2,033	B:普通	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
	計			21,972			

3. 他束の方	f/∏
達成度	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい
(目標の 達成状況は どうか)	(説明) 蔵書冊数は、目標に対しての達成率は97パーセント、貸出冊数は113パーセントである。 貸出冊数は23年度の目標には達したものの、今後の基本計画を受けて設定した数値には遠い。そのため、貸 出を増やすため、前年度同様幼稚園等の壁面展示を依頼したり、町内小中学校へ利用者登録用紙を配布したりして集客に努めている。また、館内検索機やインターネット・携帯端末での予約・延長を行えるよう利用者の利便性を高めた。
必要性	● A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある○ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは 今後どう変化 するか)	(説明) 図書館は生涯学習の重要な拠点であり、住民の知的欲求を満たすことができる。図書館は無料で誰でも利用できる施設であるため、これからも住民の知る権利を保障し、知識を得たいという欲求を満たすためには、必要性が増していく施設だと思われる。
///: XR C.	(説明) 利用者のニーズが多種多様化しているため、図書の購入等においては敏感に反応していく必要がある。 また、町民の実質利用率はまだまだ低調なため、様々な機会で図書館をPRしていくことが重要である。 図書館に来られない利用者に何が出来るのか、有用な集客方法がないか、研究し、実践していく必要がある。
4.次年度の	展開方針〔部としての判断〕
	〔複数選択可〕 ☑ 重点化して推進 ☑ 内容を見直して推進 □ その他(

4.次年度の	展開方針〔部としての判断〕				
施策の方向性	〔複数選択可〕 ☑ 重点化して推進 ☑ 内容 (説明) 住民のニーズに応じ、魅力ある図書館づくりに努め 他機関とも連携して、図書館のPRを行い、住民の記 記紀万葉事業を行う県や町の動きに対応するため	利用を促す。	充実を図る。	その他(蔵書の充実を図) る。
	事務事業名	H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	図書館収集提供事業	19,856	18,347	1	現状のまま
	子ども読書活動推進事業	83	33	3	現状のまま
	図書館利用促進事業	0	0	3	現状のまま
 施策を	図書館運営管理事業	2,033	5,961	3	拡大
構成する 主要な事務事 業の方向性					
	【新規】				
	計	21,972	24,341		
内部評価のコメント	住民への利用を促進させるよう努力は認められるだいるのかを見極め、そのために何が出来るのかを 事業や学校図書館事業などを行う各機関と連携し	各職員が研究	えしていく必	要がある。また、	これからは記紀万葉
外部評価委員のコメント	住民のニーズに応じた魅力ある図書館づくりに鋭えるかを検証しより図書館サービスの充実向上に努っ		いる。今後と	さも、目指す成界	早目的が達成されてい

施策名	文化	総合計画	画位置づけ	2-2-4		
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名		-

1.施策概要

	文化芸術発展のため、子どもから大人まで参加出来る作品展示や芸能発表会の開催をする。また、地域の生涯学習の拠点である地域公民館のハード面での支援をする事により地域の文化発展に寄与する。
施策概要	毎年文化祭を開催する。地域公民館の新築・改修・修繕に対し補助金を交付する。

۷.	夫 爬痴未						
	指標名 説明	単位	前期基本計画目標 H23年度 (目標/計画)	H24年度 (目標/計画)	H25年度 (目標/計画)	H26年度 (目標/計画)	H27年度 (目標 / 計画)
	<u>, </u>		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
	文化祭出展数	点	600	800	800	800	800
	(説明) 文化祭の出展数	从	893				
	来場者		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	(説明) 文化祭の来場者数	人	3,000				
	(説明)	-					
	拉	生た埋	 	 整の証価結用/	└─── 評価対象年度H23 ^g	上	
	事務事業名	担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	+及) 目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検	
生涯	生涯学習事業		生涯教育課	14,196	B:普通	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
	計			14,196			
				l			

3. 施管の分析

3 · NB × 07 73	W1
達成度	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい
(目標の 達成状況は どうか)	(説明) 指標の目標は達成している。
必要性	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある● B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは 今後どう変化 するか)	(説明) 近年、心の豊かさや生きがい、生活の潤いなどが重視され、町民の文化、芸術への関心が高まっており、今後も 町民のニーズに対応した多様な事業を展開する。
施策を 進める上での 問題点・課題	(説明) 文化祭も軌道に乗ってきたところであるが、出品数が多数あるため展示スペースの工夫が必要である。また、 ホールでの自主事業開催のあり方や住民への周知の方法を工夫することが課題である。
4.次年度の	展開方針〔部としての判断〕

4. 次牛度の	展開力:	対(部と	しての判断し					
		選択可〕	□ 重点化して推進	☑ 内容を	見直して推進		その他 ()
施策の方向性		こついて の向上を		を図り、自主事	業について!	は、住民の方	うに楽しんでいる	ただけるものを企画
	事務事業	業名			H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	生涯学習	習事業			14,196	17,441	3	現状のまま
							••••••••••••••••••••••••••••••	
11- mm -4-		***************************************						
施策を 構成する	***							
主要な事務事								
業の方向性				·····				

	【新規】							
			 計		14,196	17,441		
	文化祭	は、文化[の住民の方につ			の場となるようは	<u>.</u> 啓発を行っていく必要
内部評価のコメント	がある。	また、自まかが課題で	主事業については、	限られた財源の	中でいかに	こ多くの方に	楽しんで参加を	らしていただける企画
外部評価委員のコメント			は、一定の成果を役が企画し検討してい		弥生の里ホ	ールの自主	事業のあり方に	こついて経費的な事も

施策名	スポーツは	総合計画	画位置づけ	2-3-1		
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名		-

1. 施策概要

· • 007/1707	
めざす 成果目的	町民の健康増進や体力向上を目指すために、スポーツ施設の環境整備を促進する。
施策概要	町民のスポーツ活動の拠点として、各体育館・健民運動場及びテニスコート等の環境の整備を行う。

. 美 脆結果 前期基本計画目標 U24年度 U25年度 U25年度 U27年度								
指標名		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度		
説明	単 位	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)		
施設見回り回数		200	200	200	200	200		
(説明) 施設の年間見回り回数		185						
施設整備日数		150	150	150	150	150		
(説明) 年間整備回数		150						
	/#							
(説明)	件							
施	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23年	丰度)			
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検		
体育施設管理事業		生涯教育課	25,316	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地かあるが時間が必要		
計			25,316					

達成度	○ A 最終目標(H24)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている● B 最終目標(H24)達成に向け、順調に成果があがっている○ C このままでは、最終目標(H24)達成が難しい
(目標の 達成状況は どうか)	(説明) 各体育館やテニスコート、健民運動場などの維持・管理の適正化により、利用の目標はほぼ達成できた。
必要性	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある● B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは 今後どう変化 するか)	(説明) 町民の余暇時間の増大やスポーツに対する意識の高揚、又、新しいレクリエーションスポーツの増加に伴い、それに対応した施設の整備が必要となる。
施策を 進める上での 問題点・課題	(説明) 健康増進のため高齢者のスポーツ人口の増加と共に、スポーツ活動に関わる町民のニーズが多様化している中で、スポーツ施設の充実が必要となる。
4 %左车不	見明子会 (が L L アの火) 転()

4. 次年度の展開方針(部としての判断

	〔複数選択可〕	□ 重点化して推進	☑ 内容を見直	直して推進		その他(
施策の方向性	(説明) 住民が身近な地	域で安全にスポーツか	が行えるよう、体育	施設の	維持管理利	に努める。	
	事務事業名			23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	体育施設管理事	業	2	5,316	38,284	3	現状のまま
					•		
施策を							
構成する	***************************************						
主要な事務事 業の方向性		***************************************					
	【新規】						
	初八九	±1		5.040	00.004		
	体育体制のお打	計が化に伴い、利用者との		5,316	38,284	公再がちる	
	体育他或00名的 	11七に伴い、利用有との	/調整を打いなか	り、順か	(開修を行り	心安かのる。	
内部評価の コメント							
	施設の補修につ	いては、常に点検をし	補修個所につい	ては優	先順位により	計画的に実施	する必要がある。
外部評価委員							
のコメント							

施策名	スポーツ・レクリエ	ーション活動	かの普及・啓発	総合計画	画位置づけ	2-3-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名		-

1.施策概要

めざす 成果目的	住民だれもが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう、活動機会の充実を図る。
	卓球やバドミントン等のスポーツ教室の開催や春・秋の総合競技大会、町民マラソン・駅伝大会を開催する。 また、親子バレーボール大会や歩こう会を開催し、体育協会、スポーツ少年団への助成を行う。

4.美爬桁来						
指標名 説明		前期基本計画目標 H23年度	H24年度	H25年度 (目標/計画)	H26年度	H27年度
説明	単 位	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)	(実績)	(目標/計画) (実績)	(目標/計画) (実績)
スポーツ教室開催数	П	250	250	250	250	250
(説明) テニス・ソフトテニス・ジュニア サッカー・バドミントン・卓球等		215				
スポーツ大会参加人数	人	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
(説明) 春季・秋季総合競技大会・マラ ソン・駅伝大会等に参加した	^	4,201				
(説明)						
施	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23年	丰度)	
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
社会体育振興事業		生涯教育課	8,871	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
計		8,871				
HI			1 -,			

3、心鬼の力・	171
達成度	 ○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている ● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている ○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい (説明)
(目標の 達成状況は どうか)	スポーツ教室の開催数は、目標に近いが、春季・秋季総合競技大会の参加者人数が減少した。
必要性	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある● B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは 今後どう変化 するか)	(説明) 参加者・利用者数については減少傾向にあるが、少子高齢化が進んでいるいる現在、健康志向の高まりと同時に、スポーツやレクリエーション活動に対する要望は高くなると思われる。
施策を 進める上での 問題点・課題	(説明) 参加者・利用者が固定化傾向にあるので、新たな参加者をどのようにして増やしていくかが課題である。
4 . 次年度の	展開方針〔部としての判断〕
	「複数選択可」 □ 重点化して推進 □ 内容を見直して推進 □ その他(

4.次年度の	展開方	計(部と	:しての判断〕					
	〔複数逞	[択可]	□ 重点化して推済	世 ☑ 内容を	見直して推進	<u> </u>	その他 ()
施策の方向性			競技大会、町民マラ E進める。	ラソン・駅伝大会、	歩こう会な	どの開催をを	E継続的に行い	、スポーツを通した住
	事務事業	Ě名			H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	社会体育	育振興事	事業		8,871	9,284	3	現状のまま
施策を								
施束を 構成する								
主要な事務事 業の方向性								
果の方円性								
	【新規】							
			計		8,871	9,284		
内部評価のコメント			されぞれに応じたス 多様なスポーツの機				だくために、スズ	パーツ教室やイベント
	スポーツ	教室や	マラソン大会等の核	様々な事業を企画	回し充実して	きている。今	後も、更なる向	上を期待する。
外部評価委員 のコメント								

施策名	生涯	スポーツの推	総合計画	画位置づけ	2-3-3	
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名		-

1. 施策概要

	町民が生涯にわたり、健康で充実した生活が送れるように、また自主的・継続的にスポーツ活動ができるように生涯スポーツを推進する。
	町民のスポーツに対する関心が高まっている中、多様なニーズに対応できるように、指導者の育成に取り組む。

18世代	2.	実施結果						
説明 位 (目標/計画) (目標/計画) (目標/計画) (目標/計画) (目標/計画) (目標/計画) (実績) (実績) (実績) (実績) (実績) (実績) (実績) (実績		指標名	単			H25年度	H26年度	H27年度
研修会の開催数 2 2 2 2 2 2 2 2 2			位	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
(説明) (記明)				(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
指導者の育成研修 2		研修会の開催数		2	2	2	2	2
(説明) 施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H23年度) 実施内容			<u> </u>	2				
(説明) 施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H23年度) 実施内容								
施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H23年度) 事務事業名 担当課名 (決算額) 必要性の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検		(説明)	Y					
施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H23年度) 事務事業名 担当課名 H23年度事業費 (決算額) 必要性の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検 の点検								
事務事業名 担当課名 H23年度事業費 (決算額) 必要性の点検		(説明)	·					
事務事業名 担当課名 H23年度事業費 (決算額) 必要性の点検		施	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23年	手度)	
社会体育総務事業 生涯教育課 16,117 B:普通 B:概ね目標の成果が得られた あるが時間が B:見直す余あるが時間が B:単値 B:概ね目標の成果が得られた あるが時間が B:見直す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面す余あるが時間が B:見面する B:面する B:面する B:見面する B:見面する B:見面する B:面する					H23年度事業費		目標達成状況	実施内容方法 の点検
社会体育総務事業 生涯教育誌 10,111/ B.百迪 果が得られた あるが時間が	社会	会体育振興事業		生涯教育課	8,871	A:高い(義務)	果が得られた	B:見直す余地が あるが時間が必要
±± 24.088	社会	会体育総務事業		生涯教育課	16,117	B:普通		B:見直す余地が あるが時間が必要
±+ 24.098								
±+ 24.099								
章 - 24 088								
±+ 24.088								
±+ 24.088								
±+ 24.088								
±+ 24.088								
±+ 24.088								
학								
24,300		計			24,988			

	···					
達成度	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい					
(目標の 達成状況は どうか)	(説明) スポーツ推進委員を中心に健康スポーツの集いを開催し、誰でもが参加できるニュースポーツを推進することができた。					
必要性	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある● B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある					
	(説明) 社会環境の変化に伴い、町民の健康やスポーツに対する興味・関心が高まり、日常生活において、ニュース ポーツの普及により子どもから高齢者まで自発的にスポーツに取り組む機会が多くなると思われる。					
施策を 進める上での 問題点・課題	(説明) スポーツ競技者の固定化、個人の多様化する考え方などにより、指導者育成が難しい。					
1、次年度の展開方針(部としての判断)						

		EI (HPCO COPYIMI)						
	〔複数選	劉田 □ 重点化して推進 □ 内容を	見直して推進		その他 ()		
	(説明) 新しいレクリエーションスポーツ等に対応できる若い指導者の育成にも取り組む。							
 施策の方向性	がしいり	グリエーションスホーツ寺に対心できる右い	拍导有の目	の人にもおりだ	用の。			
ルタのカウ圧								
	# 70 # Y	¥.	H23年度	H24年度	唐 井 址	H25に向けた		
	事務事業	集台	決算	予算	優先性	経営資源(事業費)の 方向性		
	社会体育	育振興事業	8,871	2,618	3	現状のまま		
	社会体育	育総務事業	16,117	20,291	3	現状のまま		
	***************************************			•				
施策を								
構成する	***************************************		***************************************					
主要な事務事 業の方向性			••••••••••••					

	【新規】							
			24,988	22,909				
	スポーツ		,		一ズに応える多	<u> </u> 様な種目を開催する		
内部評価の		は、スポーツ指導者の養成が必要である。		·	***************************************			
フメント								
	住民の急	- 多様なニーズに対応できるように、ニュースホ	ペーツを含め	(様々な種目	のスポーツ指導	望者の育成に、より一		
从如本体子中		られたい。	, спо	W / WITH	1 -2 / N.3			
外部評価委員 のコメント								
37 - 17 - 7 - 1								

施策名	文化財の	総合計画	画位置づけ	2-4-1		
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名		_

1.施策概要

めざす 成果目的	文化財を将来にわたって、保存・管理し、文化財情報を発信できる状態にする。
施策概要	発掘された出土品や写真・図面資料等を整理し、出土品の内容を一般公開していく。

指標名		前期基本計画目標 H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度		
説明	単 位	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)		
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)		
遺物再整理の進捗率	0/	30	35	40	45	50		
収蔵する遺物の資料データ化 進捗率	%	30	_	_	_	_		
資料の登載点数	Ŀ	200	200	200	200	200		
展覧会用・書籍掲載用に貸出 できる状態になった遺物点数	点	286		_				
資料の貸出点数	1	200	200	200	200	200		
展覧会用に貸出した遺物点数 や書籍掲載用に貸出した写真 点数	点	619		_				
施:	策を構							
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検		
文化財保護事業		文化財保存課	9,196	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	C:見直す余地が ない		
遺跡発掘調査事業		文化財保存課	6,047	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	C:見直す余地が ない		
遺跡発掘調査受託事業		文化財保存課	1,013	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	C:見直す余地が ない		
町事業発掘調査事業(費用は各	事業認	文化財保存課	3,276	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	C:見直す余地が ない		
計			19,532					

達成度 (目標の 達成状況は どうか)	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている ● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている ○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい (説明)民間開発による調査件数が減少し、緊急雇用対応事業による遺物再整理も順調に進んだ結果、概ね目標を達成することができた。
必要性 (ニーズは 今後どう変化 するか)	● A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ○ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明)発掘調査等による成果が充実し、情報発信されることによって、貸出点数は増加すると思われる。しかし、年間登載できる点数には限りがあり、また、ニーズが多様化することによって規定外の文化財の登載も今後、予想される。
施策を 進める上での 問題点・課題	(説明)文化財には、様々な状態・大きさのものがあり、一定の収納・管理が困難である。また、奈良県立橿原考古学研究所に一時預かりの遺物の返却も要請されており、平成24年度に新収蔵棟を建設する予定であるが、再整理による圧縮が今後とも必要である。また、これまでの未報告資料は1977年からの遺物があり、これらの整理・報告書作成をどのように進めるか未知数のところがある。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

	〔複数選択可〕 ☑ 重点化して推進 □ 内容を	見直して推進	<u> </u>	その他()	
施策の方向性	(説明)発掘調査により、保管する遺物は必須であり したもの全てが整理の対象であるが、予算・人員・期 ていく。また、整理された遺物については、活用でき	間に限りが	あるので十分	分な効果の上が		
	事務事業名	H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性	
	文化財保護事業	9,196	16,555	3	現状のまま	
	遺跡発掘調査事業	6,047	6,422	3	現状のまま	
	遺跡発掘調査受託事業	1,013	35,500	2	拡大	
	町事業発掘調査事業(費用は各事業課)	3,276	6,585	3	拡大	
施策を 構成する 主要な事務事 業の方向性						
	I der La I	_	_		_	
	【新規】				_	
	計	19,532	65,062			
内部評価のコメント	(説明)発掘調査により、保管する遺物は必須であり、それを整理報告する義務を負っている。したがって、出土したもの全てが整理の対象であるが、予算・人員・期間に限りがあるので十分な効果の上がる整理方針を模索していく。また、整理された遺物については、活用できるような周知の方法を検討していく。					
外部評価委員のコメント	本町の財産である唐古・鍵遺跡をはじめ文化財の調で、確実に推進する方策について検討する必要があ		の整備、保存	F及び活用は重	重要な事業であるの	

I	施策名	歷史	史遺産の活用	総合計画	画位置づけ	2-4-2	
I	部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名		_

1.施策概要

1 1 1 1 5 7K 1 1 K 5 K		
	唐古・鍵考古学ミュージアムにおいて、発掘調査の成果やミュージアムの収蔵品、町内の文化財等を紹介する展覧会を開催し、より多くの人に田原本町の歴史遺産を知っていただく。	
施策概要	ミュージアムを開館し、常設展、企画展等を観覧できるようにする。	

指標名 説明	単 位	前期基本計画目標 H23年度 (目標/計画)	H24年度 (目標/計画)	H25年度 (目標 / 計画)	H26年度 (目標 / 計画)	H27年度 (目標 / 計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
常設展来館者数	Į.	7,000	6,500	6,000	6,000	6,000
(説明)常設展示を観覧した人数	人	6,972	_	_	_	_
企画展来館者数	ı	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
(説明)企画展に入館した人数	人	1,927	_	_	_	
(説明)			_	_	_	_
施	策を構	成する主な事務員	事業の評価結果(评価対象年度H23年	 	
事務事業名		担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
害古・鍵考古学ミュージアム運営	事業	文化財保存課	5,606	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		5,606				

達成度 (目標の 達成状況は どうか)	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている ● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている ○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい 博物館は、開館以降入館者数が減少する傾向があり、リピーターを確保することは困難である。常設展の目標数値には若干届かなかったが、企画展に関しては、目標数値以上の来館者があった。
必要性 (ニーズは 今後どう変化 するか)	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある
	(説明)ミュージアムの存在について、周知できていない部分もあり、また、来館してもらう仕掛けをどのようにおこなうかが課題である。 また、町所有文化財をより多く展示できるよう工夫する必要がある。 企画展は、他機関と開催時期が重なる為、折り込み紙や雑誌等PR媒体で掲載されないことがある。

4.次年度の	展開方針〔部としての判断〕								
		見直して推進	_	その他 ()				
	(説明)企画展の開催時期や、スポット展示等を考え を検討する。HPや広報等によりPRする。	こ、ミュージフ	アムに来館し	てもらう動機づら	けができるような方法				
施策の方向性	を使引する。 ロドベム報寺によりFKする。								
地域の力可止									
	事務事業名	H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性				
	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	5,606	6,303	3	現状のまま				

施策を 構成する									
主要な事務事									
業の方向性									

	【新規】		_		_				
			_		_				
	計	5,606	6,303	(H) H = 7% (=	A COLOR OF THE PARTY OF THE PAR				
	企画展の開催は町の文化財を知る重要な要素であ	ることから、	継続的に開	催し、情報発信	していく必要がある。				
内部評価の									
コメント									
		数本のは日	1 + 1 mile la 1	L1 7.28 L10 #	- 江戸辺の旧口 マホ				
	唐古・鍵考古学ミュージアムは企画展の開催等、入館者の増員を図られてはいるが、より生涯学習の場としての活用を図るため広報啓発とリピーターを確保する方策を検討していく必要がある。								
外部評価委員 のコメント		= 0,,,,,		., 20					
ひコケンド									

施策名	郷土愛·文	総合計画	画位置づけ	2-4-3		
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名		

1.施策概要

	ミュージアムの来館者が快適に観覧して過ごせるようにする。また、文化財に対する理解・愛着を深め、学習意欲・愛護精神を育成する。
施策概要	考古学実践講座や体験学習の場を提供するともに、学校とも連携をとり、それを支援するボランティア組織と 文化財活用を図る。

指標名 説明	単 位	前期基本計画目標 H23年度 (目標/計画)	H24年度 (目標/計画)	H25年度 (目標/計画)	H26年度 (目標/計画)	H27年度 (目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
講座·体験学習等参加人 数		600	600	600	600	600
(説明)考古学講座·体験学習·小学校総合学習等参加人数	人	1,114	_	_	_	_
ボランティア活動人数		1,000	1,000	800	800	800
(説明)ミュージアムガイド、体験学習ボランティア等、参加延べ人数	人	688	_	_	_	_
(説明)			_	_	_	
	策を構	成する主な事務事	事業の評価結果(評価対象年度H23	- 丰度)	
事務事業名	担当課名	H23年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検	
唐古・鍵考古学ミュージアム運営	文化財保存課	5,606	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	C:見直す余地だない	
計		5,606				

達成度 (目標の 達成状況は どうか)	○ A 最終目標(H25)達成に向け、計画を大き〈上回る成果があがっている ● B 最終目標(H25)達成に向け、順調に成果があがっている ○ C このままでは、最終目標(H25)達成が難しい (説明) 小学校の総合的な学習の時間における体験学習は、ボランティアのサポート体制が整い、軌道に乗っている。また、ボランティア活動は、ミュージアムガイドや体験学習の用具準備等の支援体制が整ってきている。
必要性 (ニーズは 今後どう変化 するか)	○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある
進める上での 問題点・課題	(説明)体験学習等のメニューは一定段階に達し、支援するボランティアを含め、ノウハウは整備されつつあるが、今後、ボランティアの高齢化の問題等もあり、人材育成が課題である。また児童数が、学校により差がありそれぞれに合った対応が必要になってきている。

4.次年度の	展開万	計〔部と	しての判断	<u> </u>					
	〔複数選		☑ 重点化			見直して推進		その他 ()
施策の方向性	(説明)学	学校等で	ま施される体	本験学習を充	ぎ実させてい	く。 そのた	め、ボランテ	イア育成にも支	接する。
	事務事業	美名				H23年度 決算	H24年度 予算	優先性	H25に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	唐古·鍵	考古学	ミュージアム道	重営事業(の	一部)	5,606	6,303	3	現状のまま
施策を									
構成する			***						
主要な事務事 業の方向性									
水のバゴ圧									
	→r+= 1					_	_		_
	【新規】					—			
			計			5,606	6,303		
内部評価のコメント	思われ、	ボランラ	ティア組織とと	もに取り組む	心要があ	る。			習は有効性が高いと
外部評価委員のコメント			を知り郷土を変						堂され児童・生徒の参